

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年3月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1176501862
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム大宮吉野町
所在地	331-0811 埼玉県さいたま市北区吉野町2-263-4 (電話) 048-660-5700

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年3月24日

【情報提供票より】(20年2月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤	17人, 非常勤 6人, 常勤換算 16.7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造りALCタイル張り造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	40,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり900円			

### (4) 利用者の概要(2月29日現在)

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名
要介護1	1 名	要介護2	12 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.1 歳	最低	55 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	さいたま記念病院、指扇病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

工業団地と公園に囲まれた静かな環境で、花や野菜の収穫等により季節の移り変わりが感じられる。ホーム内は各ユニットがそれぞれ調度品に工夫をこらし、明るく落ち着いた雰囲気である。「ゆったりとその人らしく」を基本として月2回の音楽療法や月1回のフラワーアレンジメントを取り入れ、利用者は穏やかに過ごしている。また、生活面では週1回の訪問看護による健康管理に力を入れているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価結果について会社(本部)、スタッフ会議、運営推進会議で検討し、建物の構造上の問題は本部で検討中であるが、ケアサービス、家族への報告等は改善に向けて実践に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で気づきや意見を出し合うユニット会議を始めた。さらにリーダー会議、全体会議を不定期にはあるが実施し、共通理解を図っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議が開催されたばかりであるが、今後はより安全で安心したホーム運営のために防犯、防災体制や地域住民及び関係機関との連携交流も期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	昨年度発足した家族会、運営推進会議で意見や要望を出してもらっている。その他面会時やアンケートで気軽に発言してもらうように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、自治会行事(納涼盆踊り大会、文化祭、ふれあいサロン等)に利用者と一緒に参加している。積極的にボランティアの受け入れをしているが、地の利が不十分で小中学生との交流は難しい。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい快適で穏やかなシルバーライフをサポートします」を開設時からの理念として掲げている。また、地域密着型サービスとして、地域との関係を強める努力をしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に理念を伝え理解してもらっている。フロアに掲示し、日々のケアで実践している。更に申し送りやミーティング時に確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周辺は工業団地であり、住宅が偏在しているため自治会に加入し交流の機会を作っている。納涼盆踊り大会や文化祭、ふれあいサロン等には利用者と一緒に参加している。毎年、ホームのカレンダーやイベントのポスターを配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解して自己評価している。ケアの質改善に努力している。設備面は会社の方針、オーナー制度もあり改善に向けての取り組みは困難である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、地域包括支援センター、家族代表、民生委員、ホーム長、ケアマネジャーをメンバーとして2ヶ月に1回運営会議を開催し、継続している。前回外部評価の要改善事項であった食器や施設等については検討し、意見交換をしている。その他については日々のケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム開設時は頻りに市役所に行ったが、担当者の異動もあって行き来する機会は減っている。市役所の調査等への協力は実施している。今後さらに地域との連携に向けて働きかけていく予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者からの預かり金に対して毎月領収書を添えた収支の状況報告書(決算書)を各利用者家族に郵送し報告している。また、暮らしぶりや健康状態については3ヶ月毎にお便りで報告している。職員の異動等については面会時に説明している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成19年11月に家族の会が発足したので、色々と意見や要望をいただけるようになった。また、面会時に気軽に声かけ出来るように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に各ユニットの職員を固定して馴染みの関係を作り、利用者が安心できるケアを心掛けている。人手不足の場合は利用者の状況を良く把握している管理者(ホーム長)が応援体制を取っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は職員研修を定期的に行っていたが、現在は見直しをしている。外部研修についてはプログラムを掲示し、各人の自由意志にまかせている。		職員研修の年間計画を立て、勤務割への配慮をすることにより参加しやすくする等、仕事へのモチベーションを上げることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員に対し埼玉県認知症高齢者グループホーム協議会への参加を勧めている。職員が参加し、業務に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族に見学を勧めたり、ホーム長、ケアマネ、リーダーが出向いて説明している。居室に馴染みの家具等を入れてもらい、なるべく家族とふれあう時間を多く持つように促している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の思いや立場に立って、日々の生活を助け合いながら過している。出来るだけ洗濯物干し、掃除、配膳車の片付け等の手伝いを歓迎し、共同作業への参加を促している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で利用者と話す機会を設け言葉や表情、しぐさ等により本人の意向を察知し、どうしたら希望にそえるか職員間で話し合いながら支援している。家族からの情報もケアに取り入れている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネがリーダーシップを取り、日々の関わりの中での情報を交換し、家族の来訪時に意見を求め、介護計画を作成している。また、計画内容については家族の承諾を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画のモニタリングを行い、現状に変化が生じた場合は医師、家族に連絡し対応している。3ヶ月毎に計画の見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日用品の購入や定期健診、医療連携、通院介助、訪問理・美容など、その時々々の要望に応じ、家族の代わりとして支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関からの、隔週の訪問診療、毎週の月4回の訪問歯科、(毎週の月4回の)訪問看護を実施し、健康管理をしているが、本人や家族の希望によりかかりつけ医への通院介助も実施している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	会社の方針はまだ明確化されていないが、利用者や家族の希望に対応するためには家族、協力医療機関、訪問看護の協力体制作り等の準備が必要であると話し合っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉遣い、態度には充分留意し、介護記録や個人ファイルの保管に注意している。また、実習生には特に注意して指導している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の挨拶時にその日の希望を聞き、心身の体調も把握した上で、利用者個々のペースに合せた生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居間に1ヶ月の献立表が掲示しており、見るのを楽しみにしている。スタッフと一緒に配膳や下膳をしているユニットもあり、食材を話題にしながら楽しく食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は狭く手すりが少ないので見守りをしている。午後の1時半以降できる限り利用者の希望により毎日入浴介助している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の状態を見極め、その人に合った役割として下げ膳やテーブル拭き、配膳車の片付け、ゴミ入れ作り等を担当してもらったり、趣味を楽しむ支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣にある公園は散歩やお花見に最適な環境である。天候の良い日は必ず散歩や庭の手入れ(野菜、草花)をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	工業団地の中にあり、交通量の多い道路に面したホームとして、利用者の安全を大切に考えて2階、3階はエレベーター前に鍵をかけている。家族にも説明し理解を得ている。		運営推進会議や家族会で十分に検討して、扉を開けるとチャイムが鳴るといった工夫など、エレベーター前に行くまでに職員が気づく方法の検討が望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設年度は消防署の協力指導を受けて利用者、スタッフ全員が参加しての避難訓練を実施した。緊急時に備えマニュアルを作成し、必読した上で夜勤体制に入っている。		入居者の状況やスタッフの異動により避難誘導は大変である。訓練は毎年必要であり、年間計画として取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立表を作成し、厨房担当者3人が地元の食材を中心に調達し、食事を作っている。食事の摂取量や水分量は記録し、少量のときは声かけて、誘導や介助を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは明るく、調和の取れたテーブルや椅子があり、壁には利用者の作品やなじみの人形、ぬいぐるみが心を和ませる。玄関には季節の花があり、小魚が泳ぐ水槽もまた安らぎを与えてくれる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族に説明して出来るだけ馴染みの家具、衣類、趣味の材料等持参するように勧めている。本人の“居心地よく”を大切にしている。		